

# 秋田の未来を描いていこう！

主催：地域力フォーラム in あきた2018 実行委員会

## 地域力フォーラム IN あきた WE CREATE OUR FUTURE

2018  
11/18  
(日)

### 第1部 プレゼンテーション 「秋田の未来は こう切りひらく」

～第一次産業からの声～

進行  
松橋 拓郎さん

中村 さくらさん(長崎県出身)  
TEDxAkitaIntlU 代表  
国際教養大学2年生

三上 理沙さん(青森県出身)  
あらやちやぱちやぱ大学代表  
秋田公立美術大学3年生

畠山 夏実さん(東京都出身)  
ARC(アーク)代表  
秋田大学3年生

長田 尚之さん(茨城県出身)  
Bls (Brewing by local students)  
プロジェクト共同代表  
秋田県立大学3年生

### 第2部 パネルディスカッション 「県外出身 大学生が 秋田を斬る！」

進行  
武内 伸文さん  
コメントター  
菅原 歓一さん

佐々木 亨さん(由利本荘市)  
IT関連の企業勤務を経て、  
兼業農家の実家農業を継承

大野 由美子さん(大館市)  
東北森林管理局勤務

千葉 泰生さん(大館市)  
大館市農林課勤務

大水 香澄さん(十和田市)  
東北森林管理局勤務

「地域力フォーラム in あきた2018」報告書  
地域力フォーラム in あきた2018 実行委員会

Facebook 特設ページにて情報発信中 → [検索](#) 地域力フォーラム in あきた



## 目 次

<b>1. 巷頭言</b>	滝本法明	1
<b>2. 実行委員からのメッセージ</b>	武内伸文 菅原香織 伊藤真由 蒔田明史	2
<b>3. 第1部 プレゼンテーション</b>		4
<b>「秋田の未来はこう切りひらく」～第一次産業からの声～</b>		
<b>4. 第2部 パネルディスカッション</b>		6
<b>「県外出身大学生が秋田を斬る！」</b>		
<b>5. フロアトーク</b>		12
<b>6. アンケート結果</b>		16
<b>7. 広報と報道</b>		18
<b>8. 開催要領</b>		19
<b>9. 実行委員名簿、協賛者一覧</b>		20
<b>10. 交流会の記録</b>		裏表紙

### 1. 巷頭言



### 足下に宝物いっぱい

実行委員長 滝本 法明

#### 【1か月前：魅力的な人いっぱい】

今回のフォーラムは、チラシもできあがらない中で協賛いただき、短い告知期間で多くの方に参加いただき、深く感謝します。

5か月前から5回の実行委員会を開催して準備してきましたが、実行委員のみんなから次から次と湧き出る発表者の提案を押さえて「今年はこの発表者で行く。」と絞り込んだのは開催1か月前でした。秋田に魅力的な人がいっぱいいたから、という理由に免じてどうか決断の遅れを御容赦ください。

#### 【3日前：フォーラムの影響力】

フォーラム3日前の深夜、次のメッセージを受け取りました。

「秋田出身で東京にいる娘の友達から次のような連絡があった。

『地域力フォーラム2014の講演を聴いて、自分も故郷に恩返しがしたいと思うようになった。近いうちに秋田に戻ろうと思っている。』」

これを読み、嬉しさとともに、私の想像を越えたフォーラムの影響力に、身の引き締まる思いがしました。

#### 【そして当日：なんも】

第三部フロアトークでのARC（アーク）代表の畠山夏実さんの言葉

「好きな秋田弁は『なんも』。「ありがとう」と言ったら返ってくる言葉です。」

それまで多用していた「なんも」は、当たり前過ぎて「なんも」気にかけたことがありませんでした。言われてはじめて、秋田の素敵なものー足下にあった宝物ーに気づかされました。

ぜひ、本報告書で振り返りながら、みんなの足下にいっぱいある秋田の宝物を発見していただければありがたいです。

## 2. 実行委員からのメッセージ



### バッサリと斬られました！

実行委員 武内 伸文

今回はパネルディスカッション「県外出身大学生が秋田を斬る！」の進行を務めさせていただきました。企画決定後、4人の大学生と打ち合わせをするまでは、大学生から秋田を斬るような発言がでてくるか心配なところもありましたが、それは杞憂で終わりました。

当日のステージでは、「秋田にはいたくないという友達が多い」、「秋田に残るんですかという質問はプレッシャーになっている」、「なんでわざわざ秋田に来たのかという質問は嫌いです」、「農業の良さを秋田の若者が知らない」、「広報が下手」、「秋田の車社会が人々のコミュニケーション機会を寸断している」、「弘前の方が秋田より街づくりがうまい！」、「東京を目指しているところが疑問」など、様々な角度から、切れ味の良い言葉でバッサリと斬られました。もちろん、「食」や「地域のあたたかさ」など秋田の良さも言及しておりましたが、これまで、秋田の人が気づいていなかった、うすうす感じていたことを含め、バッサリと斬られた印象を持たれた方も多いかったと思います。

学生たちにとってなかなか発言しにくい内容でもあったかと思います。ステージ上で発言した真摯な生の声をこの場で終わらせてはいけない。この言葉を受け止めて今度は秋田県民全体、老若男女で、アクションを起こしていかなくてはならない。そんな思いを強くした地域力フォーラムでした。伸びしろは十分ある、あとは行動を起こすだけ、そう We create our future !



### 新たな可能性が生まれる場所

実行委員 菅原 香織

高齢化率、人口減少率全国一位などの数字から「課題先進県」といわれ、なかなか明るい未来が描けずにいる秋田県のみなさん！ぜひ一度「地域力フォーラムinあきた」に参加してみませんか？秋田で奮闘している実在の若者から直接話を聞き対話し交流することで、きっと何かが変わるかも？！

かく言う私もこのフォーラムに参加するまでは「秋田には、なんもねえ」と自らの存在さえも否定する秋田特有の悲観的な風潮に「こんなんじゃ明るい未来なんか描けるわけがない」「県外に若者が出て行って戻って来なくともしかたがない」と内心憂うつに思っていました。

そんなときに誘われて参加した地域力フォーラムをきっかけにして、実際に秋田県内で活動している若者たちの存在を知り、それぞれの活動の現状、課題や目標など、本人から熱い思いを直接聞くことができました。憂うつな気分を一気に吹き飛ばしてくれる希望あふれるプレゼンテーションに、不思議と元気が湧いてくるを感じました。彼らのように、秋田にはたくさんの魅力や可能性が在ることを発見し行動につなげることができる人財が「秋田には、ちゃんと在る」ということを、秋田県内外のみなさんに伝えたい！と思い、次からは実行委員として運営に関わるようになったのです。

今回のフォーラムでは、過去プレゼンターとしてご登壇いただいた、まちづくりファシリテーターの稻村理沙さんと平元美沙緒さんから教えていただいた「グラフィック・レコーディング」という「議論見える化する技術」を運営に取り入れました。参加者がトークや対話の内容を後で振り返りができるように、記録者がリアルタイムでトークの内容を聞きながら要点をまとめて模造紙に描いたものです。おかげさまで参加者からは「見ただけでその場の雰囲気もよみがえてくる」とおおむね好評でした。

今後も回を重ねるたびに新たな可能性が生まれる、そんな地域力フォーラムであることを願っています。



## 気づきと背中を押してくれる場に

実行委員 伊藤 真由

2013年、1回目の司会進行役として実行委員のお誘いを頂いてからすでに6回を数えるフォーラム。

当初は秋田を元気に？元気になる啓発事業は多く開催される中で何が違うのだろう？フォーラムの着地点が理解できないまま数年が経ちました。2015年のフォーラムのあたりからでしょうか若い実行委員のフットワークとそれに並行した成果の素晴らしさに「地域力フォーラムinあきた」の継続の意味を理解できたように感じました。

フォーラム実行委員会のメンバーは

- I、完全に異業種である。
- II、年齢が素晴らしくバラバラである。
- III、実行委員の個々が自らの仕事でもかなり多忙な方ばかりである。
- IV、職業、年齢に関係なく自由な発想と発言ができ会が運営されている。
- V、自由参加、自由休暇の会であり人格尊重がモットーである。

そのような実行委員会なので縛りが緩く、登壇者選考に苦慮したり多忙を極める実行委員は年度によっては参加がかわななかったりと苦労もあります。そんな中で感じたのは自分が信じる事を自らの知恵と努力で発信し続け、行動し続ける方々のありのままを紹介する事でフォーラム会場にいる全ての人に、何らかの繋がりをもたらすのではという事でした。その人となりに触れた時、アンテナが繋がったり個々のフラストレーションが大きな元気の源に化学反応を起こしたりするのではと思えたのです。人は人の中で自分を知る瞬間があります。この地域力フォーラムinあきたが扱う内容は常に違い、登壇者の方々はどの方を見ても自分のやるべきことに真摯に向き合い行動しています。それが公人・職業人・学生を問わず共通している点です。今年も「地域力フォーラムinあきた」にご参加くださった皆様の思いと行動力に感謝をしながら、一人でも多くの方が今持っているその思いを何かのカタチで行動にしてくださる事を祈ります。その事がいつか地域力につながると信じるからです。一人ひとりが地域力の担い手だと信じ、私はこれからも実行委員です。



## 地域活性化って何だろう

実行委員 藤田 明史

秋田は変わってきた！ 地域力フォーラムinあきたを開催するようになって早6年。当初と比べて随分と秋田の社会も変わってきたと感じている。秋田の未来の方向性を探そうとして始めたこのフォーラム。当初3年間は「先達に学ぶ」ということで、県外から講師を招いて基調講演をしてもらい、それと同時に秋田で頑張っている若い人たちの活動を紹介しようと試みた。東谷望史馬路村農協組合長、哲学者内山節さん、山内道雄海士町長、市村良三小布施町長、それぞれが地域活性化について考え、実践され、結果を出されている方々であった。そして、来ていただいた全てのゲストの方から、こんなに元気な若者のいる秋田の未来は明るいじゃないかとの言葉をいただいた。その当時、秋田の将来はこんなにも暗い、問題だ、秋田人は変わらなければならない、そんな報道ばかりがなされていた。そうした中で、“元気な若者たち”に焦点を当て、その姿を多くの人に見てもらい、さらなる活動の活性化を目指そうと始めたのがこのフォーラムだった。それから、6年。現在では彼らの活動はいろいろなところで紹介され、プレゼンターとして登壇してくれた人たちの活動もどんどん拡大している。新聞を開けば毎日のように、若い人たちの様々な動きが紹介されている。それは社会を変えていく大きな原動力になっているのだろう。

これまで彼らのプレゼンテーションを聞いていて思うことがある。立場も取り組んでいる課題もそれぞれ異なるが、共通しているところがある。それは誰もが自分の住む地域で自分自身納得できる生き方をしようとしているところである。若者パートの副題である “We create our future!”。まさに自分はこう生きたい！、自分の未来はこうするんだという意気込みが感じられるところが心に響く。地域活性化って結局自分の納得できる生き方を求める“生きがい探し”なのではないのだろうか。まずは一人一人が“自分活性化”に取り組んでみよう、明るい未来のために！

### 3. 第1部 プレゼンテーション「秋田の未来はこう切りひらく」～第一次産業からの声～



五平農園  
ささき とおる  
佐々木 亨 (由利本荘市)

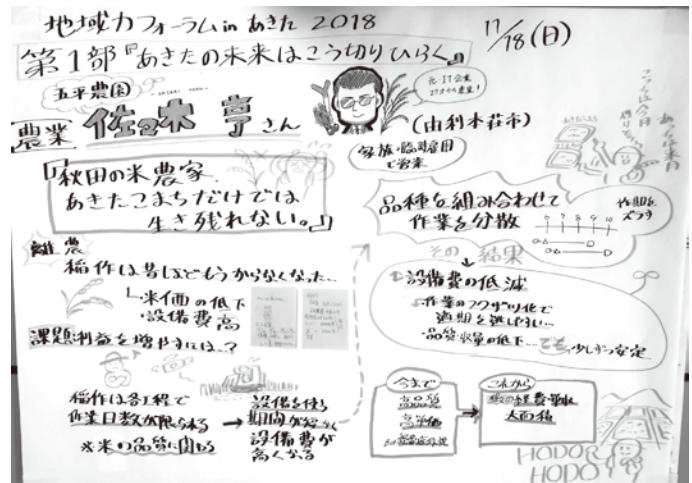
私は由利本荘市の大内地域で稲作主体の専業農家をしています。大学卒業後、IT企業でシステムエンジニアとして5年ほど従事したのち、兼業農家である実家の農業部門を継承しました。当初は水稻1.8haの作付けでしたが、就農から10年が経過し、水稻20ha、ハウス栽培の夏秋ミニトマトや冬春ホウレンソウを各200坪栽培する規模となりました。圃場は中間地から中山間地に位置しており、さらに半径5km程度に分散しているため、作業効率が良いとは言えない立地ではあります。家族3人に加え、地主やシルバー人材センターに臨時雇用をお願いしやりくりしています。

地域では徐々に離農する農家が増えており、ここ5年ほどで急激に増加してきた印象があります。自分の経営規模を振り返ると、過去10年間は年率25%の増加で、仮にこのペースで進むと、10年後には100ha、20年後には1,000haにまで拡大することになります。さすがにここまで規模拡大は現実的ではないとは思いますが、今後否応なしに地域の農地を引き受けざるを得ない将来は、覚悟しなくてはなりません。

なぜこれほどまでに離農する農家が増えたのか。これは単に高齢化だけが問題ではありません。稲作が以前ほど儲からなくなったという現実があります。平成元年ごろと比較すると、米価は約半額に減少し、一方で農機具や資材の価格は徐々に増加しています。結果として利益は大幅に減少し、さらに農機具の更新費用が加わると、小規模な農家ではもはや稲作を続けていけないという状況に至ります。

米価が以前の水準に戻ることはほぼ期待できないことなので、いかにして経費を下げていくかということが重要になります。経費は人件費や資材費、設備費などがありますが、私は特に設備費を低減すべく努力しています。というのも、稲作は設備費の割合が高く、他の業種と比較しても明らかです。これは、稲作の設備は極端に稼働率が低く、トラクターに代表される農機具や作業小屋などの設備のいずれもが、年間に10日程度しか稼働していないことに起因します。

あきたこまち単一の作付けを想定すると、播種や田植え、稻刈りといった作業日程は、その土地の気候条件によってほぼ決まり、適期はそれぞれ10日ほどしかありません。この適期からずれると、品質や収量が明らかに低下するようになります。これが、稲作の設備の稼働率が低い一番の原因です。このまま作付面積を拡大すると、短期間に



集中的に作業をせざるを得ず、そのため高能率で高価な機械を導入することになり、かえって利益率が低下することになります。

したがって、稼働率を上げるためにには、作業期間を拡大することが必要で、その方法として、様々な品種を組み合わせることが有効です。期間を前進するために、あきたこまちより早く収穫できる、極早生のたかねみのりを作付けし、一方で、期間を延長するために、中晩生のひとめぼれや晩生のコシヒカリを作付けします。さらに、飼料用米の品種である秋田63号を通常の時期に加えて、やや遅い時期にも作付けします。飼料用米では品質の低下があまり問題とならないため、主食用米では考えられないような遅い時期に稻刈りすることが可能です。

このよう作業期間を拡大すると、従来10日だった稻刈りの期間を70日までに拡大することができるようになり、同じような規模の設備でも、3倍程度の面積を作付けるようになります。稼働率が向上することで、設備費は従来の半分程度まで低減され、経費全体では3分の2程度まで抑えることができるようになりました。一方で、副作用もあり、作業工程が複雑になるために、作業適期を逃しやすくなってしまうことや、結果として品質や収量が低下する恐れがあるという側面があり、各工程を確実かつ円滑に進めるための体制づくりが課題となっています。

これから稻作は新たな方向性が求められているように、私は感じてなりません。従来は、「いい米をたくさん採る」とことばかりが重視され、経費はあまり意識されていませんでした。確かに、有機栽培に代表されるような、高品質で高単価の米を販売する農家は、これからも一定の割合で存続していくことと思います。一方で、一般的な米を生産している大多数の農家は、どのような方向に向かっていくべきなのか。これからは、品質や収量は中庸なれど、「大幅に低コストで、大面積に対応できる」という稻作農家が、生き残っていくのではないかと私は考えます。

## 林業パート

# ヤングフォレスター7

ちば たいせい  
千葉 泰生(大館市)  
大館市農林課勤務

おの ゆうこ  
大野 由美子(大館市)  
東北森林管理局勤務

おおみず かすみ  
大水 香澄(十和田市)  
東北森林管理局勤務

### ▼林業って?

皆さんは林業に対してどんなイメージを持っているでしょうか。斧や鋸で木を伐るなんて思っていませんか。

実は最近、林業には様々なイノベーションが起こっているのです!木を伐り倒したり、好きな長さの丸太を作ったり、今は機械ですべて出来ます。GPSやドローンなどのICTの導入も進み、経営力もUPしてきています。木をふんだんに使った建物も増えてきています(JR秋田駅など)。林業技術者の育成も盛んに行われるようになってきました。

ここで紹介したのはほんの少し。最近は古い林業からの進化が急速に進んでいます。ずっと昔からある産業ですが、林業はまだまだ成長できる可能性があるのです。

### ▼「国の宝は山なり。山の衰えは即ち国の衰えなり。」

江戸時代 秋田藩家老 渋江政光の言葉

秋田の林業を遡ってみます。

古くから秋田スギを中心に林業が盛んだったことは秋田県民には周知のことかもしれません。政光の言葉のように、ただ木を使うだけでなく、森林の保護や保全することで貴重な資源を後世に守り繋げることも秋田の人はずっと昔から意識して森林経営をしてきました。

現在、秋田スギは材質の良さはもとより林自体も美しいとして「日本三大美林」のひとつに数えられています。

また、秋田県はスギの人工林面積全国1位、スギの丸太生産量全国2位!全国有数の林業県です。平成27年度には、「秋田林業大学校」が開設され林業技術者の育成にも力を入れています。

大館市の伝統的工芸品「大館曲げわっぱ」や「秋田杉桶樽」など、秋田スギを使った産業も地域に根付いており、秋田音頭にも歌われています。

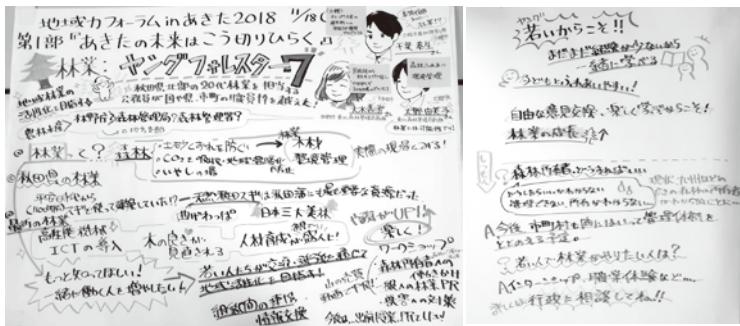
このように林業は、今も昔も秋田の重要な産業のひとつです。ですが、このようなことを知っている人は少ないのではないかと思います。林業にもっと興味をもってもらいたい!盛り上げていきたい!と考え活動しているのがヤングフォレスター7(以下、YF7)です。

### ▼YF7って何?

米代東部森林管理署(国)・鹿角地域振興局(県)・北秋田地域振興局(県)・鹿角市・小坂町・大館市・北秋田市(全7組織)の若手林務担当職員が集まり、交流し、林業について勉強する活動です。

「楽しい!」と感じながら林業の見識を深め、活性化を考えたいという思いの元、平成29年8月に結成されました。

活動内容は主に勉強会や現地見学。自由な話し合いの機会を多く設けることで意見交換や相談が出来る場とし



ても活用されています。地域の若者が組織の垣根を越えて「林業」を盛り上げようと頑張っていることを知つてもらえると嬉しいです。

### ▼YF7の活動

#### ・地域林業の課題解決に向けたワークショップ

地域林業の課題を解決するためワークショップ形式でアイディアを出し合いました。「動画サイトを利用し、持山を販売する新しいビジネスを始める」など、若い人ならではのアイディアが出されました。全てを実行に移すのは難しいですが、地域の林業について何か出来ないかと考え、共有するのが大事だと考えています。

#### ・現場見学

種苗生産業者に伺ってお話を聞いたり、林業の現場に出向いて作業の見学や体験をしたりしています。林業はやはり現場が一番!積極的に現場にも出向くようにしています。

### ▼活動を経て

メンバーからは、「楽しく林業を学べる!」「組織を超えてフラットな話し合いを出来るのが新鮮!」「みんなのアイディアを聞くことで自分のアイディアも増える!」「業務改善できた!」といった声が聞こえています。

また、つながりが強くなったことで、YF7として地域林業のために何か形に残るようなことをしたい!という気持ちが沸いてくるようになりました。

### ▼林業を知ってほしい!

今後の活動のひとつとして地域の子供たちに出前授業を開催することを考えています。本フォーラムのような地域のイベントで林業を紹介することも続けていきたいです。

YF7の強みは、経験が少ない分一般の人により近い感覚で林業を捉えられること、子供たちに年代が近く一緒に林業を考え学べることだと思います。強みを生かした取組を実施していきたいです。

### ▼若い力で林業を盛り上げよう!

#### YF7が伝えたいこと!

- ・秋田には秋田スギのような貴重な資源がたくさん!  
その資源を活用する林業はとても身近にあり、まだまだ成長できる!

- ・若い人なりの型にはまらない自由な発想は発信してこそ意味がある!

- ・組織を超えていろいろな立場の人とつながることで、自由な発想やアイディアはさらに広がる可能性がある!

YF7はまだまだ育ち盛り!たくさん吸収して、私たちが考える林業を今後も発信していきます!

## 4. 第2部 パネルディスカッション

# 「県外出身大学生が秋田を斬る！」



進行  
たけうちのぶふみ  
武内伸文



秋田大学  
はたけやまなつか  
畠山夏実さん



国際教養大学  
なかむら  
中村さくらさん



秋田県立大学  
おさだなおゆき  
長田尚之さん



秋田公立美術大学  
みかみりさ  
三上理沙さん



コメンテーター  
すがわらかんいち  
菅原歓一



では時間になりましたので第2部パネルディスカッションを始めたいと思います。

タイトルは「県外出身大学生が秋田を斬る！」です。今日は県外出身の4人の大学生に集まっていただきました。我々が気付かない点を客観的に、若い視点で、いろいろ地域の方々と交流しているところから気付いた点、そういうもので秋田を浮き彫りにしていただきたいと思います。

タイトルは「秋田を斬る」ですが、ただ斬られているだけではなく、それをどう感じるか、斬られる側の代表者として、今日は菅原歓一さん … このフォーラムの発起人であり、地域興しを応援している雑誌「かがり火」の发行人として全国津々浦々を回っておられる方です … にお越しいただきました。

ここにおられる学生さんは東京、長崎、茨城、青森と全国各地から来られた方々です。まず自己紹介をお願いします。中村さんから。



国際教養大学2年の中村さくらです。出身は長崎です。私は今TEDxAkitaIntlUというプレゼンテーションイベントを運営するチームの代表をしています。TEDxは今は英語の教材として有名になってきていますが、このイベントを秋田でぜひやろうと昨年立ち上げました。国際教養大は外国人も多いグローバルな大学ですが、この大学がすごいローカルな秋田の雄和にあるという面白さを生かしたイベントしようと進めています。



秋田大学3年の畠山夏実です。私はアークグループ  
畠山

(ARC)というサークルに1年のときに加入し、活動させていただいている。ARCは県内各地で様々な人や地域の架け橋の役割を担おうという団体で、私は藤里町で聞き取り調査を行い、「地域のお宝人材マップ」を作ったんですけど、その際に地域の方の特技とか趣味とかをを一軒一軒回って聞くという活動を行いました。お米作りとか、秋田の自然豊かなところで活動させていただいている。



秋田公立美術大学3年の三上理沙です。私たち新屋ちゃぶちゃん大学は、新屋にある水路掃除から始まった団体で、そのメイン活動である「お掃除ちゃん」を夏と秋に開催しています。地元の子供たちも一緒に参加しています。その水路を利用してライトアップする「キャンドルロード」というイベントも行っています。ほかには新屋の鹿島祭りに参加したり、町屋を利用したお誕生日会を開いたり、地域の方々と遊んだりという活動をしています。



秋田県立大学3年の長田尚之です。僕たちの活動はBlsプロジェクトといって、秋田の大学生によるビール造りプロジェクトを去年立ち上げ2年目になります。メンバーは秋田の大学生有志が集まって活動しています。写真のビールは実際僕たちが去年作ったビールで「ブルミエール」という名前です。このラベルやデザインも僕たちが企画し担当しました。コンセプトは「若い人でも飲めるビールを作ろう」ということで、今年は純秋田産ビールを作りたいと活動を行っています。



武内

みなさん、それぞれの大学にそれぞれの地方から秋田に集まっているだけではなく、多種多様な地域活動で地域の人と触れあっていますが、そんな経験から秋田をどう感じているのか、どう見ているのか聞いてゆきましょう。まず、事前にみなさんからアンケートを取り、秋田に来る前と来た後の印象を聞いています。その結果は次のとおりでした。

お名前	来る前	来た後
中村さくらさん (長崎県)	とりあえず北国	未開の土地
畠山夏実さん (東京都)	お米	ゆったり
三上理沙さん (青森県)	雨	晴れた日
長田尚之さん (茨城県)	雪・米・秋田	日本酒・自然 世界注目の秋田県

この印象はどういうことなんでしょうか。中村さんから。



中村

来る前は長崎出身ということもあって、宮城とか青森とか、東北は北なんだというぐらいしか思っていなかったです。



武内

そうですよね。我々にとって長崎はどういうところかといったら、カステラのイメージしかないということですものね(笑)。「未開の土地」はどういうことですか。



中村

来る前は漠然と雪が一杯ある北国という手触り感しかなかった場所でしたが、来てみて活動してみて



武内

みなさんいろんな地方から来ておられますが、秋田はその出身地と比較してどうなのかということを聞いてみましょう。畠山さんは東京のどちらですか。



畠山

清瀬市です。ご存じの人は少ないと思いますけど埼玉県に近いところです。秋田に来て感じたことは、アルヴェもそうなんですがラウンジみたいなところが一杯あって、丸い机があって高校生たちが勉強したり、大人の方が待合いに使ったりするスペースがあるんですが、秋田駅の中にも待合室があつたりと

住んでみて、まだ知らないことが沢山あってただ北国だけでは計れない、自分が氷山の一角に触れているような気になったという意味で「未開の土地」とさせていただきました。



武内

これから聞く可能性があるということですね。三上さん、「雨から晴」になっていますがこれはどういうことですか。



三上

最初に秋田と聞いたとき雨が多いと聞いていましたので…。青森とそんなに変わらないんじゃないかな、冬は雪が多くて暗いんじゃないかな、というイメージがあったんですけど、来てからは思っていたほど雨が多いわけではないし、地域の方がすごく優しくて温かい場所だなと思ったので「晴れた日」としました。



武内

晴れの日が多いわけではなくて、地域の人との交流で晴れてきたというイメージですね。長田さんの「世界注目の秋田県」ですが、どの辺が変わったのでしょうか。



長田

日本は元々高齢化が世界一進んでいて、その中で秋田県が一番進んでいることを聞きまして、「世界一高齢化が進んでいる秋田県」というネガティブな印象があると思うんですけど、これから秋田がどう動くかによって、高齢化がどう解消されてゆくか世界が見ているのではないか、僕たちが行っている活動を通じて少しでも秋田に貢献できてゆければいいなと思ってこう書きました。



武内

秋田は過疎先進地と言われていますが、それをクリアすると世界が注目するということですね。

か、そういうスペースがすごく多いということ、また、「カダーレ」とか、横手駅前とか、男鹿にもそういうものができたりとか、人々が気軽に集まる場所が点在していることに驚きました。



武内

あまり気付かないポイントですね。お金を払わなくても休める場所があるということなんでしょうか。



畠山

東京だと特に都心の方に行くと、疲れたときとかどこかで休もうかとなったらカフェに入るしかないんですけど、こちらだとそうではないのでそれがなんともいえません。



なかなか気が付かない点ですがそれはいい点ですね。長崎出身の中村さんはいかがですか。



長崎県と秋田県は全国的に見たら同じくらい過疎地域と思うんですけれど、来てみたら本当に不便で、なんでかなと思ったら公共交通機関がないんですね。雪国だからそうなってしまうんでしょうけれど、自家用車が当たり前の世界で、長崎は決してそうではなくて、高校時代市内中心部で育ちましたが、中心部とその周辺は公共交通機関が通勤でも通学でも全部回っている。車がないとそれができないということは、基本的にはどうしようもないということにものすごい不安を感じたということ、回数券がレトロすぎてびっくりしました(笑い)。

地元では名前も知らないどこに住んでいるかも知らない人でも毎朝同じバスに乗っている顔見知りさんがいて、疲れているときなんか席を譲ってもらったりして、そういうローカルなコミュニケーションがあったので、秋田はローカルなコミュニケーションがすごくいいにもかかわらず、車のせいでそれが寸断されている面があるのではないかということを感じました。



菅原さん、なにかコメントいただけますか。



私の時と違って秋田にこんなに大学が増えたことに驚いています。全国にたくさん大学がある中から秋田の大学を選んでくれて本当にありがとうございます。恥ずかしい話ですけれど、私の学生時代はこんなに前向きではなかった。多くの大学生は麻雀して酒を飲んでパチンコしているのが普通だったのに、今の若い人たちがテーマを持って前向きに暮らしているのは本当にすばらしい学生生活を送っていると思いました。



我々の学生時代には地域の人々と接する機会はなかなかなかつたですものね。そこから新しい視点を持てているということはすばらしいことですね。長田さんは。



僕が秋田に来て一番衝撃を受けたのはやはり雪でしょうね。元々僕は茨城県の雪の深い地域で育ったんですけど、大学に来て初めて雪を体験した当初はすごいテンションが上がって、雪国以外の人たちと毎日雪合戦をしたりかまくらなんかを作って遊んでいたんですけど、一ヶ月くらい経つともういい感じで、楽しかった雪がすごく憎くなってきて、そういう意味では雪って大変なんだなと思いつつも、秋田は結構ウインターポーツ…スキーだったりスノボだったりも大学に入ってから始めて、そういう新たな楽しみも秋田に来て増えたので、雪はいい面も悪い面もあって、うまく折り合いをつけて行こうと思いました。

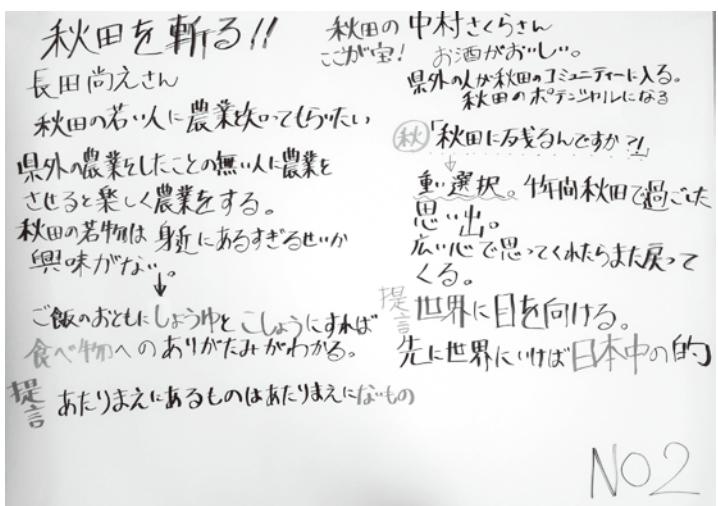
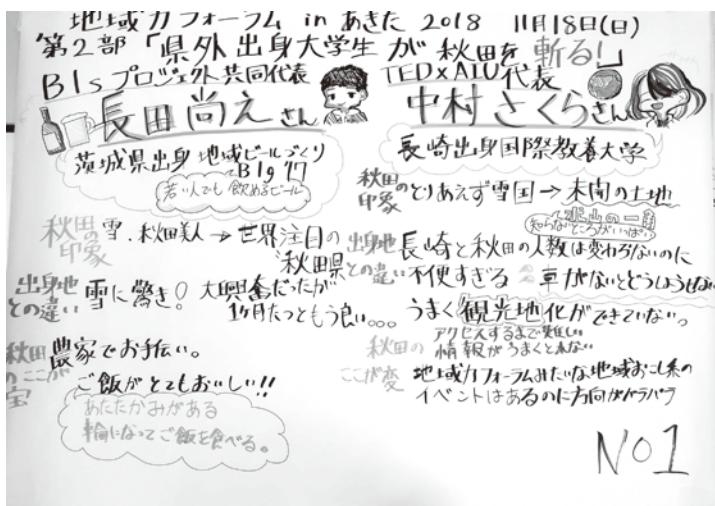


私は青森県の弘前市出身なんですけど、弘前を褒めるわけではないんですけども、弘前の方が秋田よりも街づくりというか、観光がすごくうまいんじゃないかなと思いました。伝統的な建築物だとか、弘前はすごくよく見せてるんじゃないかなと思います。



弘前は古い建物が残っていますね。居酒屋やカフェがライトアップされて使われていますものね。秋田では川反に古い銀行があったけれど今はコンビニですからね。

先ほど長崎の車の話がありましたけれど、菅原さん、どうなんですか。





菅原

確かに長崎は市内の電車代は120円だったはずです。乗り継いでも同じ料金で行ける路線もあって安いのに感動しました。僕の好きな作家の吉村昭は取材で多く訪れたのは北海道と愛媛県の宇和島市と長崎市です。長崎に取材に行ったとき、タクシーの運転手さんが道が分からなくなって、車を降りて近くの八百屋さんに聞きに入ると、その店の主人がスクー

ターでタクシーを誘導して連れて行ってくれたというようなことがたびたびあったと書いていました。見知らぬ人にそういうやさしさを示すことが街を愛するということだと思うのです。果たして我々秋田はどこまでそのようなやさしさを持っているでしょうか。



武内

次のテーマは外から見ると秋田に来て違和感がある、ここが変だよと思うところ、感じる点があろうかと思いますが、その辺のところをお聞きします。中村さん。



中村

さっきの話の延長になりますが、秋田は広報がうまくいっていないということもあるのではないか。観光資源はあるのに知らない人が多いし、アクセスするのも情報の面でもハードルが高いと思う。また、このフォーラムのような街興しの活動は多いですが皆バラバラなような気がします。うまく広報してまと

まってゆけばフォロワーも多くなって、成果につながると思う。



畠山

周りの友達や子供たちが東京や仙台に憧れている方が多いと感じています。私は東京清瀬の出身ですが、「なぜわざわざ秋田に来たのか」とよく言われる。東京のライブとか、ディズニーランドに行くとか、仙台に遊びに行くとか。一方で秋田県内の白神山地や藤里町ってどこにあるのか知らない人が多い。なんで東京なのか。秋田と東京ではあるものが違うと思う。東京にあるものを目指しているようなところがすごく強い。なぜなのかなと思う。

と思っています。



畠山

確かに秋田はご飯がおいしいと思っています。スーパーの米ではなく、農家が育てたご飯がとてもおいしい。秋田に来るとき親にご飯をしっかり食べないと痩せるよと言われましたが、逆に太るのが心配で(笑)。土日に活動先ですごくおいしいご飯を沢山いただいて、山菜も初めて食べるものが多かったのですが、すごくおいしいなと思いました。



武内

菅原さん、秋田の食はほかに比べても秀でているものなんですか。



菅原

各地においしいものはそれぞれありますが、僕はやはり自分が育ったところですから…。

僕は帰省のたびに秋田市民市場を散策するのが最大の楽しみです。秋田の山菜や海産物は見ているだけで楽しい。

このフォーラムを始めたのは、秋田県民はシャイというか控えめなところがあって、自慢できることがたくさんあるにもかかわらず、ネガティブなところを強調するくらいがあります。今年は金足農業高校が甲子園で大活躍しましたが、昔、私の父は秋田の代表



長田

僕は大学で農業を学んでいることもあって農家を訪ねることが多い。農作業の手伝いをするとお昼をごちそうになることが多いんですが、そのご飯が死ぬほどおいしくて…。いつも菓子パンなど冴えないご飯を食べているせいか、野菜とか漬物とかご飯とか味噌汁とか、そのものが異常においしい。なんでおいしいかわからないんですが、温かみがあるんじゃないかな。僕一人で食べるのではなく、農家の方々みんなで輪になって食べるんですが、そういう貴重な機会は今の大学生にはないいい経験をしている

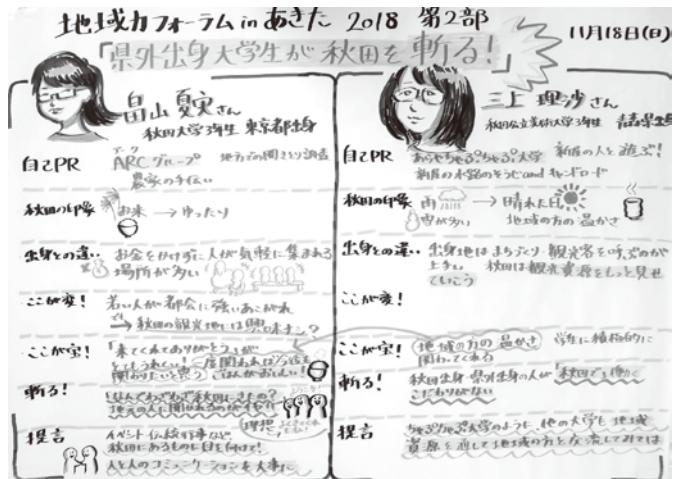
校が強豪校と当たったことを新聞で見て、「これは勝てない」と早々に白旗を上げていました。謙虚と言えないこともないのですが、悲観的になってしまいるのは県民性かもしれません。こういうことは他県から来た方たちとの交流によって、考え方も次第に前向きになっていくのだと思います。

少し前、県庁が音頭を取って「県民性を変えよう」というキャンペーンを張ったことがあったようですが、行政が旗を振ってもうまくいかないと思います。よそもの、若者の力を借りて、交流することで新しい風土を創造していくことができるのだと思います。



中村

私は日本酒が大好きで、親からは地酒を送れといつも言われています。おいしいものを飲んで、選んで送らなければという気分で飲んでいます。温かいコミュニティというのは私もすごく思っていて、学生がやっていることをみなさん応援して下さるということと、街中なんかで「あ、中村さん」とか言ってもらえるのがとても嬉しくて、そういうことが活動していく中で増えて行くのが楽しいと思う。秋田のためにとか、冠に「秋田」を付けて活動することが楽しい。仲間してくれるコミュニティがあることに価値があると思っています。国際教養大は性質上いろんな国から学



生が来ている。47都道府県からの学生、海外では国では49カ国、学校数では180校ほど。そのつながりを生かそうと思えば生かせる。そういう人たちが秋田のコミュニティに入ってゆく可能性があることもすばらしいと思っています。ローカルの中のグローバルということを全力で押してゆきたいと思っている。そういうポテンシャルがあるところも宝だと思っています。インスタグラムで発信した内容がフェイスフェイスを超えたつながりで秋田に興味を持ってくれるというのが私たちの強みだと思う。

## 【秋田を斬る！】



武内

改めて秋田を斬ってもらいたい。秋田のここが残念と思うところ、ここがもったいないと思うところがありましたら…。



三上

今、3年なので就活の話をすることがあります、友達はみな秋田にはいたくないと言う。自分の出身地に行くとか、ほかのところに行くという人が多い。なんのなか聞いてみたところ、秋田だからというこだわりがあるわけでは決してないという。秋田の出身者も秋田に就職したいわけではないという話でした。



中村

国際教養大生は秋田からの期待を感じている。期待というよりプレッシャーで…。残るんですかと聞かれてもなんとも言いようがない。多分残らないでしょう。ここで4年間過ごしたという思い出はすごく大きいので、むしろ、いつでもいいから帰っておいでくらいの広い心でいてくれたら、いつか転職したいと思ったりしたときに「ああ、そういうえば」という選択

肢に入るようなルーツを残してほしい。そのくらいの気軽さでないと残るという重い選択はできないかなと思う。



畠山

私は「なんでわざわざ秋田に来たのか」と聞かれるのがすごく嫌いです。いろんなことが重なってこうなったので、「なんで来たの」ではなく「よく来たね」くらいにしてくれると来てよかったなと思う。



長田

僕は秋田に3年暮らしてみて若い人に農業を知ってもらいたいと思っています。今まで農業をしたことがなかったし、家も農業でないという環境で、秋田に来て農業すると、すごく楽しそうにみんなわくわくしながら農業していく…。一方で元々秋田にいた方は農業が身近にありすぎるせいか農業の魅力に気が付いていない。秋田の高校生に聞く機会があったが、あまり農業には関心がないみたいで農業の話題が出てこない。秋田に若者に農業のよさに気が付いてもらうような仕組みがあつたらいいなと思う。

## 【秋田への提案】



畠山

秋田には伝統行事が冬でも沢山あって、夏だけではないじゃないですか。お祭りなんかも沢山あって、秋田にあるものにもっと目を向けて、そういうものに参加してみようという人がもっと増えたらいいなと思う。



中村

世界に目を向けたらいいと思う。ザキトワ選手みたいに先に世界に行っちゃえば日本人は結構簡単に「世界が見ているの」というように見てくれる。日本という狭い世界でなくて、初めから海外に向けてやってゆけば、いつの間にか日本が付いてくるのではないかと思うので、大きく発想を転換していったらいいのではないかと思う。



長田

僕は、茨城と秋田に来てからの生活にずれというか、違和感を感じている。雪国の生活をしてみたりとか、今まで母親が作ってくれたご飯を食べていたものが自分で作ってお金がなくて食について考えるようになったとか。普段の生活がいかに恵まれているか、そういう当たり前のことを見たり前じゃないんだよと知ってほしいと思います。



三上

私は、新屋中心にちゃぶちゃぶ大学という活動をしていて、新屋の地域資源を通して地域の方々と交流していますが、ほかのところでもこういう活動をしてゆけば、その大学とその地域の関わりができる、そこの地域資源がもっと盛り上がってくるかもしれないと思っている。



武内

ヒントになるかどうか分かりませんが二つ、エピソードを紹介します。一つは、毎年青森県の大鰐小学校の6年生十数名が上京して、飯田橋駅前の青森県のアンテナショップで、リンゴや温泉もやしを販売しています。夜は、その6年生と我々大人が名刺交換会を行います。6年生は自分の名刺をPCで作ってきて人生初めての名刺交換をするのです。そのとき引率してきた大鰐の酒屋さんの主人の相馬康穂さんは子どもたちに非常にいいことを言っていました「地元に高校はないから、高校生になればみんなはこの町を出て行くでしょう。大学生になれば全国に散らばるかもしれない。海外に行く人もいるでしょう。私はみなさんに大鰐に戻ってきてほしいとは言いません。ただ どこに行っても大鰐のことを忘れない

いです。出身はどこかと聞かれたら「弘前の下…」とは言わず、「大鰐です」と胸を張って答えてほしい。私はこのあいさつを聞いてすばらしいと思いました。子どもたちにきっと郷土愛が芽生えたことだと思います。

もう一つは、「かがり火」最新号で取材した霞ヶ関の若手官僚の話です。ちょっと前までは中央官庁は、学歴偏重だったけれど最近は違っているらしい。今の若い人たちは、どこの大学を卒業したかをあまり気にしない。出身大学を気にすることはダメだといいう風潮が芽生えているといいます。楽しく面白い仕事をしたいと考える人たちは古い体質を感じるとあっさり辞めてしまう、引き留めるのに大変だという話を聞きました。国会で大臣に忖度して虚偽の答弁をする官僚と若手官僚は全然違う。霞ヶ関も変わりつつあるのだと思いました。家柄や大学にこだわっているようだと新しい社会はつくれないと思います。年配の人たちは、古い価値観を若い人たちに押し付けるのではなく、のびのび働くように応援するのが責務だと思っています。



武内

菅原さん、貴重なヒント、ありがとうございました。今日は「秋田を斬る！」ということで、どんなふうに斬られるかということで始まりましたが、非常に多くのヒントをいただきました。学生たちの考え方、思い、こういう発想もあるのかなと気付かされたところもありました。その上で我々がどう付き合ってゆけばいいのかということについても示唆をいただきました。また、生かせば、磨けばというところもいろいろ出てきました。海外とのセットの話もありましたし、地域の人に対してどう関わってゆくのかということについていろいろなヒントがありました。次は我々がどう行動するかが問題だと思います。ぜひとも聞くだけではなく、これを機会にみなさんでアクションをとっていただけたらと思います。本日は本当にありがとうございました。



## 5. フロアトーク

### 佐々木亨さん

#### Q1 【IT技術】

IT企業にいた前職が現在の職業に活かせていると感じる部分はありますか。

IoT（モノのインターネット）の活用による生産性向上の検討をしていますか。

**A1** 現在、IT技術は使っていない。以前、田んぼにウェブカメラを利用していたが、使わなくなった。稲作経営に直接つながるIT技術ならば、今後導入したい。

#### Q2 【農業の大規模化】

将来広い面積の耕作をする覚悟があるとのことですが、周りに同じ方針のライバル農家はいますか。目標の耕作面積はどのくらいですか。耕作放棄地を買い取ることはありますか。

**A2** 耕作面積の目標は特に決めていない。周りから頼まれれば、フレキシブルに対応できるようにしたい。耕作放棄地となる前の段階で借り入れるなどして、荒廃を防ぎたい。

#### Q3 【若い人、将来、雇用】

若い人が農業を始めやすいアイデアはありますか。

佐々木さんのような考えの若い農業者は増えましたか。

企業化しても、農業会社に就労したい人がいないと思う。

**A3** 「若いこと」イコール「先進的」とは思っていない。

自営業としての農家は、ハイリスク。企業化して就業条件が整備されれば、職の選択肢となりえるのではないか。

農業の法人化は、今後、必要なことと考えている。

#### Q4 【作期分散（早生・中生・晩生など多品種を組み合わせて育成して田植えや収穫が一時に集中しないようすること）】

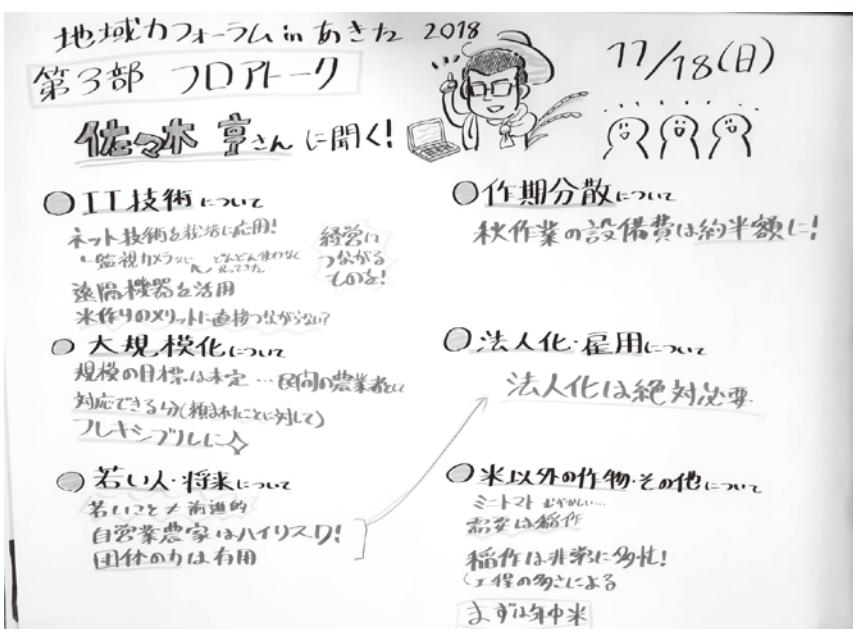
作期分散の効果はどのくらいありましたか。

**A4** 機械、設備の稼働率が上昇したので生産コストを約2/3にすることができた。

#### Q5 【稲作以外】

稲作以外の農業は行う予定はないのか。

**A5** 以前ミニトマト栽培もしていたが、今はやっていない。耕作を依頼される農地が急増している現状では、やはり稲作の需要が大きい。稲作は行程が多く多忙なため、当面は稲作に注力したい。（担当：滝本）

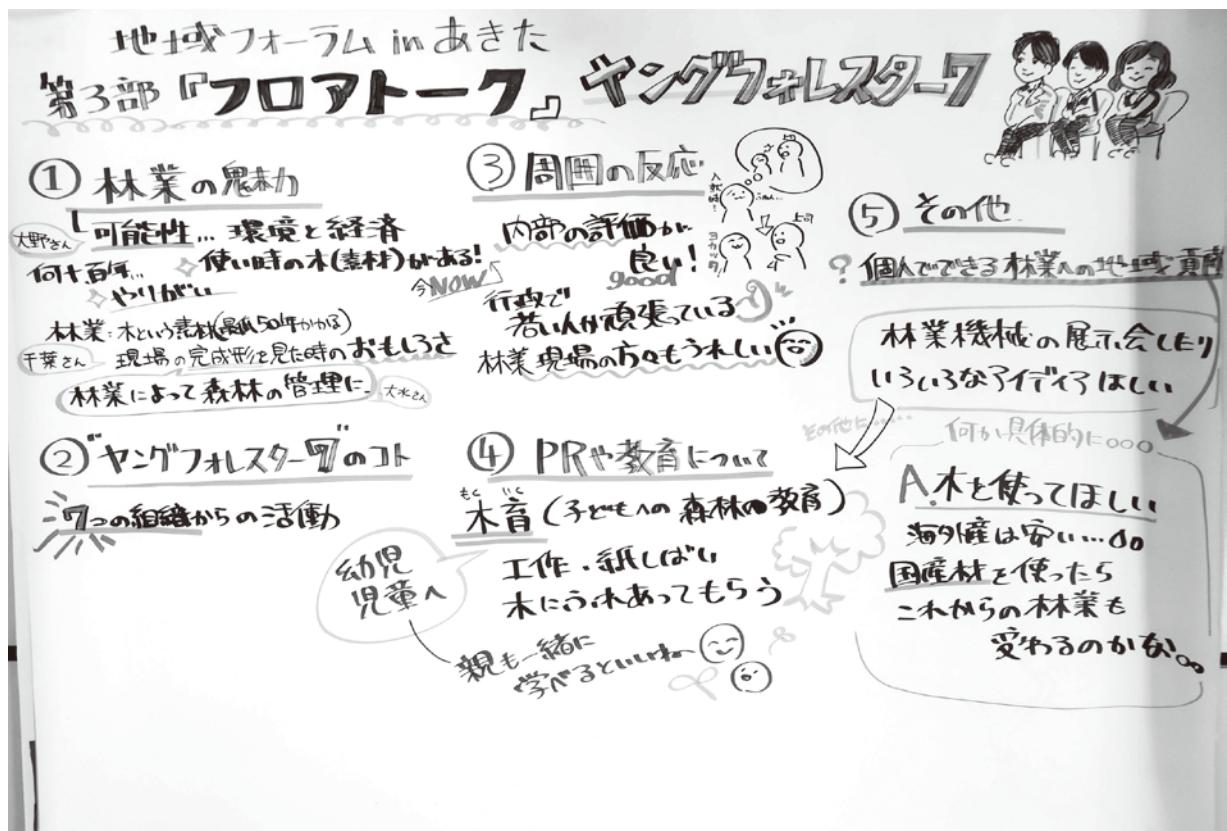


## ヤングフォレスター7

地域力フォーラムで林業に関する発表は初めてだったこともあって、林業や木材利用のこと、森林管理局や林業大学校のことなど、基本的なことも含めて多数の質問が寄せられました。それに対し、大水さん、大野さん、千葉さんが入れ替わり、長時間をかけて森を育てていく林業の魅力や重要性について語り、いろんなアイデアを出して、みんなが森や木材に興味を持つようになり、何よりも木を使うことが日本の森にとって大切だと訴えかけました。和気あいあいとした、あっという間の15分間でした。

※なお、ヤングフォレスター7は11月29日に行われた全国の国有林野事業業務研究発表会森林ふれあい部門で林野庁長官賞最優秀賞を受賞されました。おめでとうございます。

(担当: 蒔田)



## 畠山夏実さん

### Q1 【思い出】

秋田での一番心に残っている思い出を教えてください。

A1 角館町白岩平城で開催された白岩城址燈火祭です。  
館山に麒麟をかたどって焚かれたかがり火が美しかった。

### Q2 【好きな秋田弁】

秋田弁でいいと思った言葉を教えてください。

A2 「なんも」です。秋田で「ありがとう」と言うと「どうしまして」の意味で  
返ってくる「なんも」という言葉がとてもいいと思いました。

### Q3 【秋田のゆったり】

パネルディスカッションで「秋田がゆったりしている」と感じたのは「人」ですか。それとも「時間」ですか。

A3 人も時間もゆったりしていると感じます。東京で感じるガツガツした感じが秋田にはないと思います。

### Q4 【学生の地域活動】

畠山さんが地域で活動するようになったきっかけを教えてください。  
また、学生が地域で活動する良さはなんですか。

A4 「秋田のことを知りたい」と思ったことが地域活動のきっかけです。

学生の活動をきっかけに地域活動にも興味を持ってくれる人がいることや学生の年齢層の人がいない地域で世代間交流ができることが良いと思います。

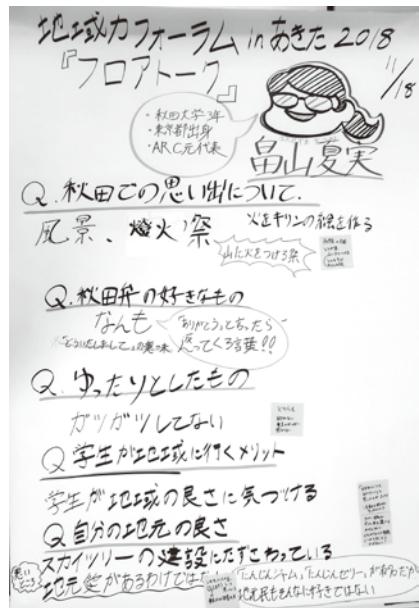
### Q5 【地元への想い】

畠山さんは地元（東京都清瀬市）について教えてください。

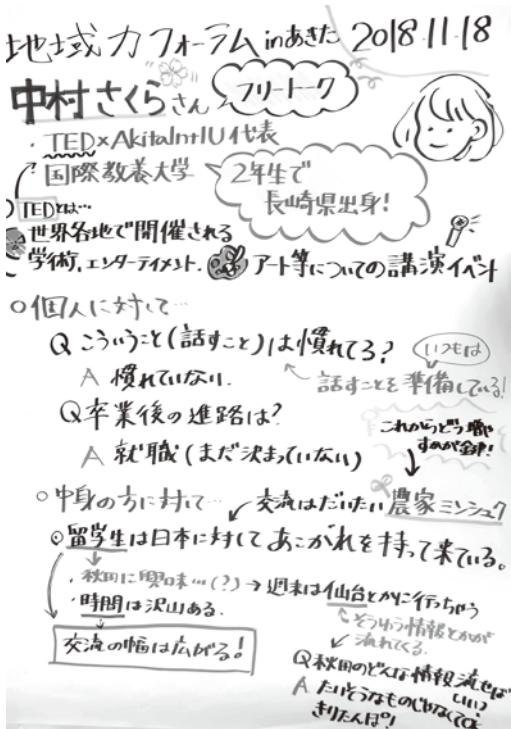
A5 清瀬市は東京都の中では田舎。

清瀬市は、東京スカイツリー R のデザインを監修された澄川喜一先生の住まいがあり、施工を担当した大林組の技術研究所があり、自立電波塔世界一の建設に深く関わる街を誇りに思っています。

都内一の生産量を誇るニンジンの加工品「にんじんジャム」「にんじんゼリー」のおいしさには意見がいろいろあります（笑）。



## 中村さくらさん



### 【個人への質問】

Q1 お話が落ちているが、普段から人前で話すことに慣れているのですか？

A1 慣れているわけではない。いつもは話すことを準備してから話している。

Q2 卒業後の進路はどのような分野を考えていますか？

A2 就職を希望していますが、まだ分野は決めていない。

### 【パネルディスカッションの中身への質問】

Q3 秋田の人は留学生とどのように交流したらいいと思いますか？

A3 現状のほとんどが農家民宿での交流です。留学生のほとんどが秋田にあこがれや関心を持っているので、是非、多くの人と交流する場があればいいと思う。

Q4 秋田の魅力として何を伝えたらいいと思いますか？

A4 そんなに特別でなくてもよくて、きりたんぽなどでもいいと思う。

（担当：武内）

## 長田尚之さん

長田尚之さんのフロアトークには年代も男女比も立場も様々な人達が集まりました。

秋田の農産物を利用した、純秋田産ビール作りプロジェクトを立ち上げた活動についてお話をうかがいました。

### <フロアからの質問>

#### Q・ビール作りを始めようとしたキッカケは？

A・元々このプロジェクトは、先輩が立ち上げたもので、自分は副代表として参加していましたが今年度から自分が代表を引き継ぎ活動しています。

キッカケは、若者のビール離れをどうにかしたと思ったのと、ビールの多様性を知って欲しいという想いででした。そして一番は秋田の農産物を使ったビール作りに興味があったからです。

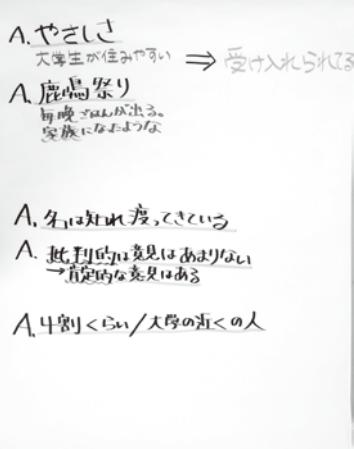
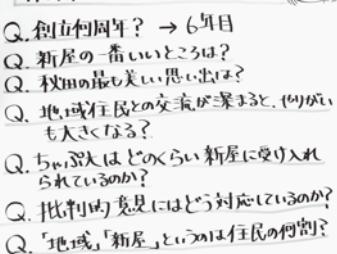
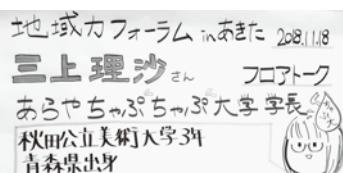
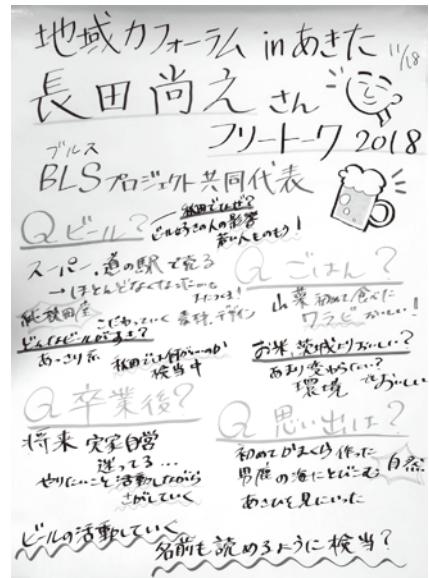
#### Q・秋田の材料で作るならどんなスタイルが似合いそうですか？

A・目的によって造るビールのスタイルは異なります。現在メンバーで話し合いをしている段階です。秋田ならではの特徴のあるビールが造れたらと思っています。

#### Q・将来ビール作りに関わる予定は？

A・将来仕事として関わるかはまだ分かりませんが、プロジェクトとしては来年度から本格的に活動します。純秋田産ビールを造るために頑張っていきます。

若者達が造る、秋田の農産物にこだわった純秋田産ビール。どんな味、色、香り、パッケージで産声をあげるか、口にできる日を楽しみにしています。  
(担当:畠山)



## 三上理沙さん

#### Q. ちゃぶちゃん大学について

結構長く続いている印象きちんと引き継いでくれる学生さんのおかげですね！ ところで創立何周年ですか。

A. 6年目となる。ちゃん大の名前は活動を通じて大分浸透してきている。

#### Q. 地元民との関係

100%受け入れられるというのは難しいでしょうが“ちゃん大人”はどんなものでしょうか？批判的な意見にはどう対応していますか？発言の「地域」「新屋」というのは住民の何割の事ですか？

A. 新屋は大学生が住みやすい町（受け入れてくれる→受け入れられていると感じます）

批判的な意見はありませんが肯定的な意見は聞かれる事があります。  
地域→大学近くの方々 新屋とは住民の何割ですか→4割くらい

#### Q. 地域住民との交流が深まると楽しさや、やりがいも大きくなりますか。

A. 大学生が参加する事を受け入れてもらえる環境があり継続的に地域の様々な行事に参加しています。中でも鹿島まつりは地域の方が毎晩、食事を用意してくれて交流をはかれる機会です。

#### Q 新屋に来て一番良いと思った所はありますか自分は新屋に住んだことがないのよろしくお願いします。

A やはり人が優しく親切で住みやすいところです。

#### Q 秋田の最も美しい思い出を教えてください。

A 様々な行事の後の地域の方々との食事の席です。地域の様々なお話を聞きながらまるで家族になったような気持になります。  
(担当:伊藤)

## 6. アンケート結果

### 1. 第1部「秋田の未来はこう切りひらく」を聞いた感想や意見

- ・農業経営の実態がよくわかった。法人化に向けた取り組みについて今後フォローしたい。
- ・林業に関する情報発信先をもう少し絞る(ターゲティング)べきではないかと思う。
- ・ただ若いというだけでなく、これまでの考えを変えていくパワーを感じました。
- ・これから秋田の発展を見据えたプレゼンで、秋田の第一産業における可能性を感じました。
- ・農林業の大きな課題を知った。
- ・若い人のやる気に励されました。機械化などが進んで、仕事がしやすく儲かるようになって就職先に農林業を選ぶ人が増えればよいと思いました。
- ・農業部門について、自分の実家も農家なので、大面積化・生産向上についてなかなか難しいと思うが、頑張って欲しいと思いました。
- ・第一次産業への関心がより一層深まりました。
- ・農業や林業のこれからがあり、ただ昔からの古いものではもはやないと思った。
- ・農業や林業についてあまり知らなかつたので勉強になった。
- ・普段、聞くことのできない第一次産業者の話を聞くことができ興味深かったです。
- ・いつもいろいろと考えるきっかけになります。ありがとうございます。
- ・佐々木さん→稲作技術の新しい方向性を論理的に追及されていて納得。しっかりした事業計画に期待します。日本人の命、食を支えてください。頼もしいです。作業管理の大変さ、よくわかります。  
うちも山があり、苦労しています。農業も問題をゆるい図でなく硬く表現していたのが面白くて伝わりました。
- ・大野さん、千葉さん、大水さん→若い人がなぜ林業なのかをきちんとつかんで働いておられるのは立派です。頑張って欲しい。山国秋田を守って! フォレスター7の取組み、各地域でもできるといいですね。親しみやすさが抜群でした。

### 2. 第2部 県外出身大学生の意見を聞いての感想や意見

- ・良いところは真似をしても良いと思っていますが、どこかにゴールがあるのではなく、秋田にしかできないことがあるのでは?と考えさせられました。
- ・悲壮感ただよう秋田県という言葉が印象的だった。
- ・県外からの学生からの意見は違う観点から秋田を見て、また共感できるところもあって、刺激になりました。
- ・学生の(秋田に対する)感覚を知り参考になった。
- ・若い学生たちの話はなるほどと思いました。「なして秋田に来た」から「よく来たね」。若者が農業に触れる機会作りたいですね。
- ・違う視点での考えを聞くことができて楽しかった。急に変えることはできないかもしれないが、仕事も若者も増えて欲しい。
- ・皆、しっかりしているな。私は社会人ですが全然ダメだなと思いました。
- ・県外出身者から見た秋田の話が、とても面白かったです。
- ・冷静に、秋田の改善点(変えられる可能性のあるポイント、県民や取り組みのスタンス)を具体的にイメージしやすい回答だった。
- ・秋田についての見方がたくさんあり、とても参考になった。今回出た課題について、解決したらいいと思う。
- ・共感できることができました。
- ・自分も県外出身者なので同じことを感じたのを思い出しました。
- ・当たり前のことを当たり前だと思っていいやいけない!を今日持ち帰ります。

### 3. フォーラム全体について

1) あなたはどちらでこのフォーラムを知りましたか?

(複数回答可)

- ①新聞 0
- ②雑誌 0
- ③ラジオ 0
- ④チラシ 3
- ⑤知人 7
- ⑥フェイスブックなどSNSで 6
- ⑦その他 2 (いずれも職場から)

2) フォーラム全体の感想をお書きください

- ・ 大変お疲れ様でした。素晴らしいです。私も行動します。
- ・ 秋田を知る一歩になりました。
- ・ 立派!真面目!よく頑張っています。
- ・ 司会が大変良い。
- ・ 発表者をよく発掘(?)されていると思います。若い人が多くて将来への種まきになるフォーラムだと思います。参加者

が少ないのでちょっと残念。どうしたらしいのかなあ。

- ・若い人ほど頑張っている。歳をとて仕事するほどダメになるのじゃないかと思われました。日本が狭い世界と考えたことなかったのでびっくり。
- ・書籍では得られない生の声を聴けた点で、大変有意義なものでした。
- 飽きずに聞ける内容、配分、よかったです。
- ・全体的に私にとって刺激になった。今まで参加したことはなかったが、今回参加してみてとても勉強になった。
- ・6年もこのフォーラムを続けていて、地域おこしをしようという県民のを感じました。
- ・時間的に参加しやすくなりました。
- ・地声の小さい人の話が聞き取りづらい。他は内容的には大満足でした。

### 4. リクエストや提案等

- ・ 参加費をとるのであれば、発表者資料をハンズアウト(印刷物にして配る等)するぐらいのことはした方が良いと思う。ステージは不要。スクリーンが高くて首が疲れた。
- ・ 繰り返して欲しい。継続には困難が伴うと思いますが、秋田でこれだけ若者が地域を考える会はありません。3,4回参加していますが、間もなく80代、その都度啓発されています。
- ・ 一般の人に知っていただくための工夫をさらにお願いしま

す。参加費1,000円は少しハードルが高いようにも思いました。

- ・ フロアトークは企画としては良いけれど、時間配分が難しいと思った。

参加者:55名(登壇者10名を除く) アンケート回収:14名(回収率25.4%)



## 8. 開催要領

# 「地域力フォーラム inあきた2018」 開催要領

～We create our future～

## 1. 目的

著しい人口減少と高齢化に直面する秋田で頑張っている若者たちの活動と想いを共有し、秋田の未来を切りひらくために、登壇者や聴講者が互いに応援し合えるきっかけづくりの場として本フォーラムを開催します。

## 2. 日時

2018年11月18日（祝）13:30～16:30

## 3. 場所

秋田市拠点センター アルヴェ（〒010-8506 秋田県秋田市東通仲町4-1）

## 4. 参加費

1,000 円（学生無料）

## 5. 内容

### 第1部 プレゼンテーション

「秋田の未来はこう切りひらく」～第一次産業からの声～

農業パート：佐々木 亨さん（由利本荘市）五平農園

林業パート：ヤングフォレスター7

大水 香澄さん（十和田市）東北森林管理局勤務

大野 由美子さん（大館市）東北森林管理局勤務

千葉 泰生さん（大館市）大館市農林課勤務

進行：松橋 拓郎さん

### 第2部 パネルディスカッション

「県外出身大学生が秋田を斬る！」

パネラー：畠山 夏実さん（秋田大学3年生・東京都出身）

中村 さくらさん（国際教養大学2年生・長崎県出身）

長田 尚之さん（秋田県立大学3年生・茨城県出身）

三上 理沙さん（秋田公立美術大学3年生・青森県出身）

進行：武内 伸文さん

コメントーター：菅原 歓一さん

## 6. 主催

地域力フォーラム in あきた 2018 実行委員会

実行委員長 滝本 法明

## 7. 問合せ、申込先

NPO 法人あきたパートナーシップ

電話 018-829-5801 FAX 018-829-5803 メール ffakita@gmail.com

## 8. 参考

本フォーラムは2013年から毎年実施しており、今回で6回目の開催になります。

## 9. 実行委員名簿、協賛者一覧

### 実行委員名簿（「あいうえお」順・敬称略）

No.	氏名	住所	備考
1	石井 宏典	秋田市	
2	伊藤 真由	秋田市	26~28年度総合司会、29~30年度交流会司会
3	伊藤 靖子	大仙市	
4	葛西 郁花	秋田市	
5	加藤 茉子	秋田市	
6	菅原 香織	秋田市	
7	菅原 歓一	東久留米市	発起人、28年度基調講演 30年度コメンテーター
8	菅原 梯祐	秋田市	
9	菅原 展子	秋田市	事務局
10	杉本 巍	秋田市	
11	住吉 泉	秋田市	29~30年度グラレコ
12	関 徹彌	秋田市	26年度実行委員長、会計
13	高杉 静子	秋田市	事務局
14	滝本 法明	秋田市	29~30年度実行委員長
15	武内 伸文	秋田市	26年度プレゼンター、27~28年度副実行委員長 30年度進行
16	谷崎 由奈	秋田市	
17	寺田 俊夫	秋田市	
18	中村さくら	秋田市	30年度パネラー
19	袴田 俊英	藤里町	29年度提言聞き役
20	畠山 順子	秋田市	事務局
21	蒔田 明史	秋田市	27~28年度実行委員長
22	松橋 拓郎	大潟村	27年度プレゼンター、28年度コーディネーター、 29年度副実行委員長・29~30年度総合司会
23	佐々木 亨	由利本荘市	30年度プレゼンター
24	大水 香澄	十和田市	30年度プレゼンター
25	大野由美子	大館市	30年度プレゼンター
26	千葉 泰生	秋田市	30年度プレゼンター
27	畠山 夏実	秋田市	30年度パネラー
28	長田 尚之	秋田市	30年度パネラー
29	三上 理沙	秋田市	30年度パネラー
30	児玉百合香	秋田市	30年度グラレコ
31	松井 美帆	秋田市	30年度グラレコ
32	西尾 葉月	秋田市	30年度グラレコ
33	高野 美思	秋田市	30年度グラレコ
34	野畠 菜々	秋田市	30年度グラレコ
35	織田 修平	秋田市	30年度グラレコ
36	田村久留美	秋田市	30年度グラレコ

### 協賛広告社・協賛者（ご寄付者）一覧

#### I 協賛広告（順不同）

No.	事業所名	市町村名
1	寺田内科医院 様	秋田市
2	秋田ホーチキ株式会社 様	〃
3	関社会保険労務士事務所 様	〃
4	ナベシマ 様	〃
5	矢島保育園 様	由利本荘市
6	佐々木内科循環器科医院 様	秋田市
7	菅原内科クリニック 様	〃
8	株式会社丸幸 様	横手市
9	NPO法人あきたパートナーシップ 様	秋田市
10	NPO法人あきたスギッチファンド 様	〃
11	一般社団法人あきた地球環境会議 様	〃
12	ウインドベル 様	〃
13	愛心苑 様	〃
14	武内印刷株式会社 様	〃
15	KOMABA 様	〃
16	株式会社みちのくテレコム 様	〃
17	社会福祉法人柏仁会 様	大仙市
18	合同会社かがり火 様	千代田区
19	しの八 様	秋田市
20	ガーデンファームさしなべ 様	由利本荘市
21	有限会社 コレクト 様	潟上市
22	あくらビール 様	秋田市
23	むつみ造園土木株式会社 様	〃
24	株式会社むつみワールド 様	〃
計24団体		

#### II 協賛者（ご寄付者）(順不同)

No.	ご芳名	市町村名
1	森 栄子 様	上田市
2	寺田 俊夫 様	秋田市
3	藤谷 智義 様	〃
4	伊藤 靖子 様	大仙市
計4名		

総計28件



## 10. 交流会の記録



今年は開催時期と会場の変更によって交流会も初めての「楽市」となり、

何もかもが初めて尽くしの中で交流会参加人数が読めない状況もあり、困ったな～！からのスタートでした。

あげくの果ては会場が貸し切りでは無いため恒例の「明日があるさ」→「秋田があるさ」を流すのも歌うのも出来ないと言った事に。何も無いものどうなの？と思いつォーラムの過去数年の報告書をスキャンし急遽パワーポイントを作り映す事を試みた。乾杯の発声や中締めの担当依頼の事前のお願いはせず当日に肩たたきでお願いします・・の流れ。それも結果オーライのこの会。昨年までは簡単なシナリオはあったが今年は全く準備なし。例年通りだったのは私のこのアナウンス「交流会はその字のごとく交わり流れるです。お席は時々移動して交流してください。知った方とは隣に座らないでください。」のみ。そんなアナウンスからいざ交流会をスタート。スクリーンには参加がかなわなかった実行委員や登壇者にして現在は実行委員として動いてくれているメンバーの姿が映し出されるとその話題に触れながら思い出を語る。登壇者の応援やグラフィックレコーディング担当で交流会にも参加してくれた大学生数名にスピーチを頂きながら「アレ、過去には学生さんがこんなにスピーチするシーンは無かったな！例年はゲームや大人の方の話しが主体だった」と気が付く。様々な変化とチャレンジをした今年のフォーラムの流れが交流会にもあった。変化するのがこのフォーラムらしい。「秋田があるさ」は歌えなかつたけど、この場にいる方々の胸には確かに「秋田があるさ」が響いていたと思う。はてさて来年はどんな変化があるのやら。（伊藤）